

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 39 2010. 03. 31.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

N2事故 (GK破損事故) シリーズ③ どうして壊れたGKのまままで走行したのか！？

今回は事故後の対応についてです。

事故当日、乗客から110番通報されるような異常な状態(白煙・異臭)に陥ったN2編成は、最終的に新神戸駅で床下点検を行い、GKが破損してギアが外部から見えるということんでもない事態が判明したのです。

この直後、JR東海に緊急出動の要請があったものと思われます。

ほどなく大阪修繕車両所では、自動車に仮搬送台車を積み込んで新神戸へ向けて緊急出動しました。

仮搬送台車を装着しないと動かせないほどN2編成のGKが破損していると思われたため大阪修繕車両所に緊急出動の要請があったものと推測されます。

ところが大阪修繕車両所の緊急出動部隊がもう少しで新神戸駅に到着しようかという頃に、JR西日本は運行を優先したいが為か？(新神戸駅では待避線も通過線もないため全く運行がストップしていた)GKが破損したまま新大阪駅まで回送したのです。

このことを穿った(うがった)見方をすれば大阪修繕車両所の緊急出動部隊が破損状況を確認した場合に仮搬送台車の装着をせざるを得なくなるため(仮搬送台車装着に時間がかかるため、長時間にわたり運転が再開できなくなる)、JR西日本としては、緊急出動部隊が到着するまでにN2編成を新大阪駅まで回送し、運行を再開したかったのではないかと思います。

回送中に破損が進み 二重に事故を起こす可能性もあった！？

結果としては、新神戸駅から新大阪駅まで無事に回送できたわけですが、新大阪駅から鳥飼基地への回送は緊急出動した大阪修繕車両所の社員の手で仮搬送台車を装着してから行われました。つまり仮搬送台車を装着しなければならなかったほどGKは破損していたのです。

新神戸駅からの回送中にGKの破損が進み、二重に事故を起こす可能性があったわけで無謀な回送であったといえます。たとえお客様を乗せていないとはいえ安全最優先であるべき鉄道としてはあってはならないことだと思います。

今回、JR東海エリアで仮搬送台車を装着して回送したことは安全を考えた最良の対応だったと思います。

鉄道会社の使命として一番に優先されるのが『安全』であり、『安全安定輸送』です。

「他山の石」として、決して今回の事故後の対応のように『運行』が『安全』より優先するようなことにならないように心がけなければなりません。